

1027 ヒト脳脊髄液中にはPTHrPが存在する
滋野長平、河野弘昭、山本徹、夏井耕之、笠井隆一、佐藤幹二、中尾一和、山室隆夫、小西淳二（京大放核、整外、二内、済生会中津病院神経内科、東女医大内分泌）

脳脊髄液(CSF)中のCa濃度は能動輸送により厳密に恒常性が保たれているが、この調節因子は明らかではない。診断的腰椎穿刺が行なわれた患者30名についてのCSF中のPTHrP-(1-86)濃度(Nichols)は 3.1 ± 0.4 pM, (mean \pm SD)、C端PTHrP濃度(DRL)は 391 ± 199 pMであり、疾患特異性を認めなかった。CSF中にはROS 17/2.8細胞のcAMP産生刺激活性が存在し、その容量反応曲線はrP-(1-34)に平行し、マウス抗ヒトP-(1-34)抗体により特異的に中和され、rP-(3-40)により抑制された。免疫組織化学的に脈絡叢上皮細胞にPTHrPの局在が認められた。PTHrPは脈絡叢上皮で産生されCSF中に分泌される。その生理学的な役割は不明であるが、脈絡叢上皮細胞でのCa能動輸送の調節因子である可能性がある。